

キャンパス発 この一品

2次元コード付き墓石——立命大

立命館大学理工学部の研究グループは2次元コードを彫り込んだ小型の墓石を開発した。スマートフォンなどから読み取り、インターネットで故人の写真や動画にアクセスできる。金属や木材に微小な穴を彫り込む技術を活用した。自宅に置く墓石として新たな供養の方法を提案する。

電子工学を専門とする道関(どくせき)隆国教授の研究グループと、墓石販売の浦部石材工業(滋賀県豊郷町)が共同で開発した。墓石は「思い出たくぼ」と名付け、2021年度中の販売を目指す。墓石とコードの彫り込みをセ

思い出動画で故人しのぶ

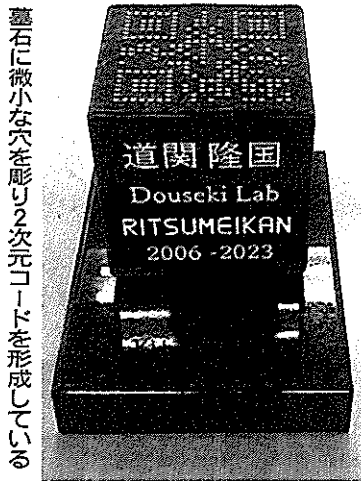
ットで7万5000円の予定。動画サービスの利用には別途料金がかかる見込みだ。

墓石は横12センチ、奥行き12センチ、高さ13センチで上部に2次元コードが彫られている。穴を彫り込んで作ってあるため、既存の商品よりも丈夫で劣化しにくいという。

道関教授は金属板などに微小な穴を開けて2次元コードを作る技術「ポラスコード」を開発した。一般的に2次元コードに使われるQRコードでは四角形のセルを並べるが、ポラスコードは丸い穴を配置してセルの数が少ないため彫り込みやすい。

石材への応用を検討していた時に浦部石材工業が小型の墓石を販売していることを知り、20年11月に共同で開発が始まった。道関教授らが墓石に穴を彫る機械へのプログラミングや石材の種類による読み取りの確認を担当し、浦部石材工業が加工した。

道関教授は「劣化しにくい2次元コードによって、いつでも自宅で故人をしのぶことができる」と話す。



墓石に微小な穴を彫り2次元コードを形成している